

# DVのない社会にむけてわたしたちができること

◎もし、身近な人がDVの被害にあっていたらどうしたらいいか「NPO法人全国女性シェルターネットワーク」にアドバイスをいただきました。

## ◆DVに気づいたら

DVの被害者の中には、悩みを一人で抱え込んでいく人が少なくありません。身近な人が深刻で心配な状況にあると気づいたら、まず相談窓口や法律などの必要な情報を届けてあげてください。

被害者の中には、悪いのは夫ではなく自分のせいだと感じてしまったり、自分がDVの被害にあっていることを明確に自覚できないケースが多いのです。そういうときは、近くにいるあなたが、適切な相談窓口に行くよう伝えてあげてください。本人がなかなか勇気を出せないようであれば、一緒に行ってあげると心強いかもしれません。

## ◆やっつけ話にならない

一方、当事者の近くにいるあなたが、被害にあっていると思われる本人の了解を得ないまま、自分でなんとかしてあげようと不用意に動くのは危険です。特に、次のことは、絶対にやらないでください。かえって状況を悪化させるおそれがあります。

- ・DV被害者の夫に直接注意する。
- ・被害者の両親や夫の両親など、家族・親戚などに相談・報告する。
- ・被害者の了解を得ないで、警察に相談する。

## ◆DVの知識を深めよう

加害者は通常の社会生活をおくる「良き父、良き夫」に見えることも多く、まだまだDVの深刻な現状が認知されていません。被害者がDVを相談しても、「夫婦喧嘩」と受けとられたり、「そのくらいの暴力は我慢するのが当たり前」などと言われたり、無理解による二次被害にあうことも珍しくありません。

被害者は加害者の精神的・身体的・性的暴力によって痛めつけられ、経済的・社会的暴力によって孤立させられています。社会がDVを理解し、処罰と支援の体制が確立しなければ被害者が暴力から逃れるのは難しいのです。

一人ひとりの市民に求められるのは、DV被害の実態を理解すること、相談窓口の情報を提供できるようにするなど、DVを見聞きした際のノウハウを身につけることです。被害者に「あなたは悪くない。暴力を振るう加害者こそが悪いのだ」と言ってあげられる市民が増えていくことが、女性にとって安全な社会、DVのない社会を築くことにつながります。

## ●こんな様子に気づいたら

「DV被害」にあっているかもしれません。

- ・不審なアザがある。
- ・学校や職場を休みがちになった。
- ・不眠を訴える。
- ・最近やせてきた。
- ・家事や学業、仕事に身が入らない。
- ・子どもをないがしろにする。
- ・子どもに執着する。
- ・友人、知人のつきあいが疎遠になる。
- ・電話に出ない。
- ・音信不通になる。
- ・何かに脅えている。
- ・外出をしなくなる。
- ・能面のように無表情になる。
- ・隣近所で悲鳴や泣き声、怒鳴り声をきく。
- ・ちょっとした怪我や火傷をよくする。
- ・自殺未遂をする。

特集

みんなで考えよう!  
DVのない社会にむけて